

マニピュレーション

宿主誘導



久保恵理子 中澤ふくみ

宿主誘導 マニピュレーション | 久保恵理子 中澤ふくみ

1/28 水 — 2/14 土 PM 12-7 (最終日 ~ PM5) 休廊: 日・月・火

そこにあるものは目に見えるままなのだろうか。

目の前の現実とは白々しく私達を操る。現実と精神が巻き付き合っ、体の内側から何かか囁きかける。寄生された虫が水辺に向かうように、私達はわざとらしく輝く光に抗えなくなる。

久保は、均衡の崩れる瞬間の精神世界を作品のテーマに据え、星座や動物などのモチーフを通して、内と外の境界が曖昧になる感覚をナラティブ的に描き出す。また、動き続ける人間と道具の関係性を軸に、ドローイングやアニメーションなどの平面作品を制作している中澤は、今回は椅子の形態や用途が人間の身体をどのように制約し、また拡張するのかを探る。

KUBO Eriko

広島県生まれ。2019年京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)油画コース修了。2021年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。

出身地である広島での平和学習によるアニメーションから作品の根源である「均衡の崩れる瞬間」をテーマに平面作品を制作している。

近年参加の展覧会に、「一角獣座」(焚、京都、2025)、「ART OSAKA 2023」(大阪、2023)、「古い夢、壁には輝く蝶」(スタジオニューホープ、2023)などがある。

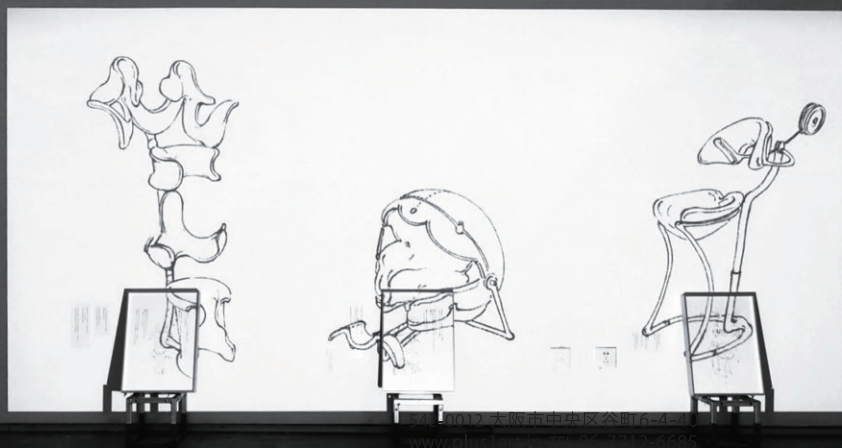
NAKAZAWA Fukumi

2019年京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)油画コース修了。2020年エストニア芸術アカデミー修士課程アニメーションコース入学。

身体とあらゆる道具との関係性に着目し、線描でそれらの境界線を探るようなアニメーションを制作する。近年の展覧会、上映会に「日本深掘り-トモグラフィ-」(中国美術学院、杭州、中国)、「やんばるアートフェスティバル2025」(大宜味村立旧塩屋小学校、沖縄、2025)、「補の分身」(biscuit gallery、東京、2024)などがある。



Manipulation



Opening 1/31(土) PM 5 ~

アーティストトーク + 音楽会(江崎将史)

参加費: ¥500 定員: 20名

要予約 (+1art ▶ gal@plus1art.jp)



+1art 大阪市中央区谷町6-4-40 TEL 06-7712-6685

image 表面: NAKAZAWA Fukumi and KUBO Eriko 裏面: 上《play God》2023, 《エスキース》2021 by KUBO Eriko | 中央《Video installation in China》2025 by NAKAZAWA Fukumi